

おはようございます。
長崎大学人、河野茂です。

10月に教育の価格と価値についてメールしました。
ある先生から、<「大学教育に価値があるかどうか」は、受益者（学生）から考えてみると、「大学進学で得られる収益率、つまり私的収益率が高いかどうか」で議論できます>と、返信を頂き、詳細なデータを紹介してもらい勉強になりました。
ある職員からは、英教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）のランキングに関する考察を頂きました。
また、ある学生からも長崎大学で学ぶ価値についてのコメントも頂きました。
多くの皆さんが、この問題を意識してくれて有難いと思いました。

本日は、公認会計士・税理士・特定社会保険労務士であります波多順子監事よりメッセージを頂きます。

長崎大学の「価格と価値」

監事 波多順子

「高い100円もあれば、安い100万円もある」。
確か、こんな感じのフレーズだったと思います。私がまだ学生だった頃のベンツのCMです。当時の私でも「ベンツ=高級車」であることは知っていたので、その一味も二味も違うキャッチコピーに「さすがはベンツ！」と感心したことをはっきりと覚えています。
このフレーズはまさに「価格と価値」の本質を言い当てていますが、マーケティング戦略の視点から見ても「良質のものが、すごくお得に買えますよ！」ということ「あくまで間接的に」「しかも知的に」呼びかけているのですから、今考えても素晴らしいキャッチコピーだと思います。

さて、今回いただいたテーマである「価格と価値」ですが、前者の「価格」設定には、原価に利益を上乗せして決める方法、競合他社を基準に自社商品の価格を決める方法、顧客心理を使ってブランド戦略を行って高めに設定する方法など、様々な決め方があります。価格設定を見誤ると、損益に直結しますので大変です。

長崎大学の「価格」には、入学金や授業料の他にも、リカレント教育、受託研究、共同研究、財産貸付料などがあります。

自由に価格設定ができるものについては、損益をきちんと把握した上で、当該事業の趣旨を加味して政策的に適切な値決めを行うことが必要です。

後者の「価値」については、会計の分野で様々な関連用語があります。

例えば「付加価値」「企業価値・株主価値」「清算価値」などが有名です。詳細は割愛しますが、「付加価値」はプラスアルファの差別化された価値として財務分析に使用しますし、「企業価値・株主価値」は主に M&A（合併・買収）や投資を行う際に、「清算価値」は会社を潰した方が得か、存続・再生させた方が得かを判断する際に使用します。

大学は学生、国や自治体（財源の観点からは国民です）、寄付者、企業などステークホルダーが多いので、様々な方から多様な価値観のもとに評価される立場にあります。

日本の少子化や厳しい国家財政を考えれば、今後ますます大学の経営統合が進む可能性はありますし、未来の大学には、ステークホルダーから「存続価値」>「清算価値」とジャッジされた実力のある研究室や人気のある講座しか生き残れない・・・なんて可能性もありえます。

長崎大学では10月1日にプラネタリーヘルス学環（大学院）がスタートしました。

プラネタリーヘルスは学環だけに係るものではなく、「長崎大学」として掲げている大きな旗です。

私たちは実際に、毎年気温の上昇を体感し続けていますから、近未来に予測される深刻な地球温暖化とそれが引き起こす諸問題は現実味を帯びてきました。

プラネタリーヘルスは、環境のみならず全ての分野と密接に関連しています。

その点、総合大学として全ての学生・部局が等しく活躍できるテーマでもあります。

また、人類にとっての喫緊の課題ですから、はっきりとした問題意識を持って意欲的に取り組める挑みがいのあるテーマでもあります。

全部局が知を結集して総合大学ならではのプラネタリーヘルス戦略の提言を行うと共に、ステークホルダーから正当に評価してもらえよう的確なブランディング活動を並行して行っていけば、長崎大学の価値（評価）は着実に向上していきます。

今長崎大学は、法人の未来を左右する大事なスタート地点に立っているような気がします。

また、学生の皆さま、教職員の皆さま自身が長崎大学を構成する貴重な一員であることを考えれば、「個」の立場からそれぞれに資質を高めていかれることも重要だと思います。

「組織」と「構成員」とは必ずセットで存在します。

「長崎大学という組織の価値」が上がれば「所属している個々人の社会的評価」も上がり、逆に「個々人の資質」を高めれば「構成体である大学の価値」も上がる、表裏一体の関係にあるのです。

本日は読んでいただき、ありがとうございました。

長崎大学の、そして私達一人一人の未来の為に、共に前進していきましょう。

私の門外漢の分野を、わかりやすく説明頂きありがとうございました。

ぜひ、この分野を研究する学生や教員が出て来て欲しいものと思います。

監事がおっしゃるように、長崎大学と長崎大学人は、セットで存在し、価値を生み出すのは、私たち自身ということがよくわかりました。

さあ、今日も、がんばりましょう。